



コミュニティ・スクールの活動紹介

泉小学校・泉中学校が大泉の地域の皆さんと共に活動するCS(コミュニティ・スクール)。CSではあいさつから始まる関係性を大事にしていますが、あいさつや声かけこそが、コロナ禍以降、変容していく社会のなかで健やかな日常をつくるのだと感じます。今日も子どもたちをおおらかに見守りながら、学校運営にたずさわる地域ボランティアの皆さんとの活動を紹介します。



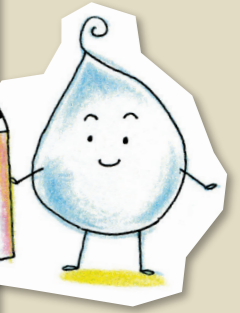
中学生キャンプ

北杜市各中学校から公募で集まった中学生が、高校生や大学生、社会人になったOBやOGに見守られながら、夏の3日間を清里でキャンプ生活を送ります。泉中学校からの参加者は「他校生との交流」が魅力で、「ゲームやキャンプファイアーを通して新しい友達と仲が深められるのが良かった」との感想を。自然に抱かれ貴重な時間でしたね。



学習支援、小中学校「ほくとまなび舎」へ

大泉地区では以前から、教員のOB・OGが学校のニーズに合わせ、ボランティアで学習支援に関わってきた歴史があります。コロナを機に、北杜市が主宰する夏休みの「まなび舎」へと形を変えて、継続中です。愛情あふれる教育は地元出身ベテラン教育者の腕の見せ所!「説明が分かりやすくて助かった!」とは参加した中学生のコメント。



安全パトロール

朝、様々な箇所地域の方が登下校の小学生の見守りをして下さっている姿を見かけます。約5年間、登校見守りを続けている宇田博男さんは、「登校班の子どもたちが元気にあいさつしてくれたり、いろんな話をしてくれたりして、とにかく可愛くて元気もらっています。自分の生活のリズムも整うし、ありがたいです」と感想をくださいました。

「大泉の子どもたちの健康を育む」地域保健委員会

長期休業中に取り組む『早寝早起きかみかみ朝ごはん』や『寝る前30分アウトメディア』などのチャレンジカレンダーを活用しながら、地域ぐるみで健康に関する啓発活動を推進することを目的としている会です。7つの組織から成り立ち小・中学生の健やかな成長を手助けしてくれています。データからひもとかれた児童・生徒の健康課題に対して、それぞれの立場から意見交換をしました。



読書の扉を開く、読み聞かせの時間

読み聞かせボランティアの皆さんによる朝の読み聞かせが再開しました。子どもたちはじっくりと聞き入りながら、思いがけない発見や喜びで朝の教室を満たしていきます。読んでもらった本を図書室で再び手にするなど、本とのつきあいを深める豊かな時間。今回はどんなお話を選ぶか、読み手も楽しんで参加しています。



元気に歩いた、ふるさと大行進

緑鮮やかな5月、泉を歩き、泉を知る、ふるさと大行進が行われました。低学年は鳴石、安楽寺、考古資料館へ。CSの浅川倫世さんから紙芝居を交えて鳴石の由来を学びました(写真左)。中学年は道喜院、逸見神社(写真右)、八雲神社へ。道喜院では座禅も経験。高学年は棒道を歩いてシルクロード美術館を目指します。日本画家・平山郁夫さんの作品を鑑賞した後、泉の名前の由来である大湧水へ。半日かけてたっぷり歩き、泉の歴史を学びました。

